

⑪ 公開特許公報 (A) 平2-273200

⑫ Int.Cl.⁵C 12 Q 1/42
1/68
G 01 N 33/532
33/536

識別記号

府内整理番号

⑬ 公開 平成2年(1990)11月7日

A 6807-4B
B 6807-4B
C 7906-2C
C 7906-2C

審査請求 未請求 請求項の数 12 (全8頁)

⑭ 発明の名称 化学発光の測定方法

⑮ 特願 平1-184432

⑯ 出願 平1(1989)7月19日

優先権主張 ⑭ 昭63(1988)7月19日 ⑮ 日本(JP) ⑯ 特願 昭63-178194

⑰ 発明者 岡田 政久 東京都新宿区下落合4丁目6番7号 富士レビオ株式会社
内⑰ 発明者 芦原 義弘 東京都新宿区下落合4丁目6番7号 富士レビオ株式会社
内⑰ 発明者 二宮 忠司 東京都新宿区下落合4丁目6番7号 富士レビオ株式会社
内⑰ 発明者 矢野 朗 東京都新宿区下落合4丁目6番7号 富士レビオ株式会社
内

⑰ 出願人 富士レビオ株式会社 東京都新宿区下落合4丁目6番7号

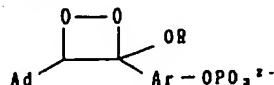
明細書

1. 発明の名称

化学発光の測定方法

2. 特許請求の範囲

(1) 固相を用いる化学発光の測定方法において、酵素として酸又はアルカリホスファターゼ及び基質として一般式



で表されるジオキセタン誘導体を用い、pH 4~pH 10.5で酵素反応させた後、その固相のみをアルカリ条件で発光反応させる該測定方法(式中、Adはアグマンチル基、Rは低級アルキル基であり、Arは芳香族基である。)。

(2) 化学発光測定法を酵素免疫測定法に用いた、特許請求の範囲第(1)項に記載の方法。

(3) 化学発光測定法をポリヌクレオチド測定法に用いた、特許請求の範囲第(1)項に記載の方法。

(4) 酵素反応を停止剤を添加し、反応を停止させた後にアルカリにおいて発光反応を行う、特許

請求の範囲第(1)、(2)又は(3)項に記載の方法。

(5) 停止剤が酵素阻害剤又は酸である、特許請求の範囲第(4)項に記載の方法。

(6) アルカリで反応を行う際にエンハンサーを共存させる、特許請求の範囲第(1)、(2)又は(3)項に記載の方法。

(7) エンハンサーがタンパク、ポリアルキル4級アミン又は蛍光剤である、特許請求の範囲第(6)項に記載の方法。

(8) タンパクが BSA、HSA、ヒト免疫グロブリソ又は卵白アルブミンである、特許請求の範囲第(7)項に記載の方法。

(9) 蛍光剤がフルオレッセイン、シスージクロロビス(2,2'-ビビリジン)ルテニウム(II)ハイドレート又は4-フルオロ-7-ニトロベンゾフラザン、7-フルオロ-4-ニトロベンゾキサジアゾールとアミン、アミノ酸、ペプチド若しくは蛋白質との結合物又はその誘導体である、特許請求の範囲第(7)項に記載の方法。

(10) 固相発光を有機溶媒中で行なう特許請求の